

組合員・利用者本位の業務運営に関する取組状況

当組合は、平成4年10月の創立以来、「果樹・やさい・花の里」「ふる里」「紀の里」の里を愛し、人々の豊かな心を育み地域の発展に貢献することを理念として掲げ、「元気な農業」「元気な地域」「元気なJA」の実現に向けて一丸となって取り組んでおります。

この理念のもと、平成29年3月に金融庁より公表された「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択するとともに、組合員・利用者の身近な金融機関として「利用者満足度100%」をめざし「選ばれる存在」となるよう、質の高い高度なサービスに努め、組合員・利用者の将来の夢や希望する生き方から成るライフプランの実現に向けて一人ひとりの資産状況、ニーズに寄り添った提案を行うため、以下の取組方針を制定いたしました。

以下に掲げる内容を「組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針」として公表し、その取組状況や成果を定期的に確認し、必要に応じて見直しを行ってまいります。

紀の里農業協同組合

I. 取組状況

1 組合員・利用者の皆さまへの最適な商品提供 【原則2本文および（注）、原則3（注）原則6本文および（注2、3）】

組合員・利用者の皆さまに提供する金融商品は、特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢や手数料の水準等も踏まえたうえで、組合員・利用者の皆さまの多様なニーズにお応えし、長期的・安定的な資産形成・運用に資する最適なものを取り扱っております。なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。

【アクションプラン】

- ①金融商品の選定にあたっては、農林中央金庫が第三者評価機関からの意見を伺いながら「長期投資」「手数料水準」「運用実績」「将来性」「運用体制」等を踏まえて検討した商品を、当組合がその適切性を審査したうえで「J Aバンクセレクトファンド」（以下「セレクトファンド」という）として採用しております。
- ②セレクトファンド提案にあたっては「J Aバンクセレクトファンドマップ」を作成し、組合員・利用者の皆さまに分かりやすい資料を提供し、それに基づいた商品を提案するよう心がけております。
- ③セレクトファンドは一度“セレクト（選択）”されれば終わり、というものではありません。このセレクトファンドが組合員・利用者の皆さまにご提供する最適な投資信託であるかを継続的に確認し、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインナップの見直しを行っております。
- ④組合員・利用者の皆さまの資産運用・資産形成ニーズに則した最適な商品を提案するため、税制優遇制度（NISA、つみたてNISA、iDeCo）をご案内し、長期・積立・分散投資を基本に大切な資産を守り・育てるお手伝いをいたします。

I. 取組状況

2 組合員・利用者の皆さま本位のご提案と情報提供

【原則2本文および（注）、原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1, 2, 4, 5）】

（1）組合員・利用者の皆さまの金融知識・経験・財産、ニーズや目的に合わせて、組合員・利用者の皆さまにふさわしい金融商品をご提案いたします。

【アクションプラン】

①総合事業の強みを発揮し、金融商品に限らず幅広い提案ができるよう、組合員・利用者の皆さまのライフイベントや目的を把握し、組合員・利用者の皆さまの“一生涯”のニーズにお応えすることができるよう、組合員・利用者の皆さまに寄り添ったご提案をいたします。

②組合員・利用者の皆さまの金融知識・経験・財産、ニーズや目的等を確認する際は、「資産運用ガイダンス」や「JAバンク資産運用スタイル診断シート」、「JAバンクセレクトファンドマップ」などを活用し、組合員・利用者の皆さまにふさわしい商品のご提案をいたします。

（2）組合員・利用者の皆さまにふさわしいサービスの提供。

【アクションプラン】

①紙の取引残高報告書が手元に無くとも、タイムリーに投資信託の残高や評価損益、運用損益（トータルリターン）等が照会できるJAバンクアプリをご案内し、投資判断に必要な情報を幅広く提供いたします。今後も必要な情報は随時ご説明し、資産形成・資産運用やライフプランを含めた生活の不安や悩みに対し真摯に向き合い、寄り添い、自分事として考え、対応いたします。

②組合員・利用者の皆さまにふさわしい商品を提案するために、対面によるご提案を大切にしておりますが、組合員・利用者の皆さまのご意向を踏まえ、スマートフォン等によるWEBを活用した非対面でのお取引も整備し、利便性の高いサービスの提供を行います。

I .取組状況

(3) 組合員・利用者の皆さまの投資判断に資するよう、商品のリスク特性・手数料等の重要な事項について分かりやすくご説明し、必要な情報を十分に提供いたします。

【アクションプラン】

① 組合員・利用者の皆さまに資産形成・資産運用の必要性、投資そのものの魅力を伝えるとともに、多様なニーズにお応えし、「組合員・利用者の皆さまに選ばれる存在」となれるよう、質の高い高度なサービスに努めてまいります。

② 組合員・利用者の皆さまの投資・商品選択の判断に資するよう「J Aバンクセレクトファンドマップ」を活用し、商品のリスク特性について資料を提供いたします。また、商品・サービスにかかる重要な事項等を容易に理解できるよう記載した「重要情報シート」を使用し、交付目論見書等と含め組合員・利用者の皆さまの視点に立ち分かりやすく説明いたします。

③ アフターフォローの訪問基準として、取引残高報告書送付のタイミングを基準にご契約者さまへお伺いし、財産の状況・投資目的・リスク許容度の変更等がないか丁寧に確認してまいります。また、アフターフォローの際は、「各種報告書類の見方」や「月刊マーケットレター」等を活用し、分かりやすく説明いたします。

(4) 組合員・利用者の皆さまにご負担いただく手数料について、お客さまの投資判断に資するよう、丁寧かつ分かりやすい説明に努めます。

【アクションプラン】

① お客さまからご負担いただく手数料・信託報酬等の費用については、「J Aバンクセレクトファンドマップ」「交付目論見書」等の書面を用いて分かりやすく説明を行います。

② 不確実な事項は、断定的な判断とならないよう組合員・利用者の皆さまの理解度を十分確認のうえ丁寧な情報提供を行います。

I .取組状況

3 利益相反の適切な管理 【原則3本文および（注）】

当組合では、組合員・利用者の皆さまへの商品選定や情報提供にあたり、組合員・利用者の皆さまの利益を不当に害することがないように、「利益相反管理方針」に基づき、適切に管理いたします。

【アクションプラン】

- ①当組合は、利益相反のおそれのある取引の特定および利益相反管理に関する組合全体の管理体制を統括するための利益相反管理統括部署およびその統括者を定めております。この統括部署は、営業部門からの影響を受けないものとしします。
- ②当組合の役職員に対し、本方針および本方針を踏まえた内部規則等に関する研修を実施し、利益相反管理についての周知徹底に努めております。
- ③利益相反管理統括者は、本方針にそって、利益相反のおそれのある取引の特定および利益相反管理を実施するとともに、その有効性を定期的に適切に検証し、改善いたします。

I. 取組状況

4 組合員・利用者本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

【原則2本文および（注）、原則6（注5）、原則7本文および（注）】

当組合では、高度な専門性を有し誠実・公正な業務を行うことができる人材を育成し、「組合員・利用者本位の業務運営」を実現するための態勢を構築するため、各種研修や勉強会の実施、資格の取得を推奨しております。

【アクションプラン】

- ①資産形成・資産運用に精通した担当者を幅広く育てるため、農林中央金庫、系統組織主催の資産形成サポートプログラム等の各種研修会を活用し、専門性を有した人材の育成を図っております。
- ②運用会社による勉強会を定期的で開催し、全ての担当者の継続育成に努めております。
- ③資産形成・資産運用は働く世代である私たちにも必要なことであるため、役職員向け内部研修会を定期的で開催し、自身の資産形成を積極的に進め、金融リテラシーの向上に努めております。
- ④当組合は、組合員・利用者の皆さまからいただいた「声（お問い合わせ・ご相談、ご要望、苦情等）」を誠実に受け止め、業務改善に努めます。

I .取組状況

5 組合員・利用者本位の業務運営にかかる成果指標【原則2本文および（注）】

当組合における「組合員・利用者本位の業務運営」の取組状況をご確認いただけるよう、各種成果指標を定期的に改訂・公表し、より良い業務運営につなげてまいります。

【アクションプラン】

以下の指標を公表することにより透明性の高い業務運営に努めてまいります。

- ①投資信託の取扱商品ラインアップ
- ②投信つみたて契約件数
- ③投信販売額に占める毎月分配型の比率
- ④運用損益別顧客比率
- ⑤投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン
- ⑥投資信託預り残高上位20銘柄のリスク・リターン

(※) 上記の原則および注番号は、金融庁が公表している「顧客本位の業務運営に関する原則」（令和3年1月改訂）との対応を示しております。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

① 投資信託の取扱商品ラインアップ

- 特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢や手数料の水準等も踏まえたうえで、お客さまの多様なニーズにお応えし、長期安定的な資産形成・運用に資する最適な投資信託を取り扱っております。
- JAバンク全体では商品新規導入を行う際は、第三者評価機関からの意見を伺いながら、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインナップの見直しを行っております。それにより以下のように商品数が増減いたします。

<投資信託の取扱い商品ラインナップ（2024年3月末時点）>

| カテゴリ | 国内 | 海外 |
|-------|-----------------|---------------|
| 債券型 | 1 (前年度末：1) | 9 (前年度末：8) |
| 株式型 | 6 (前年度末：6) | 7 (前年度末：7) |
| REIT型 | 2 (前年度末：2) | 3 (前年度末：3) |
| バランス型 | 11 (前年度末：11) | |

※ 現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

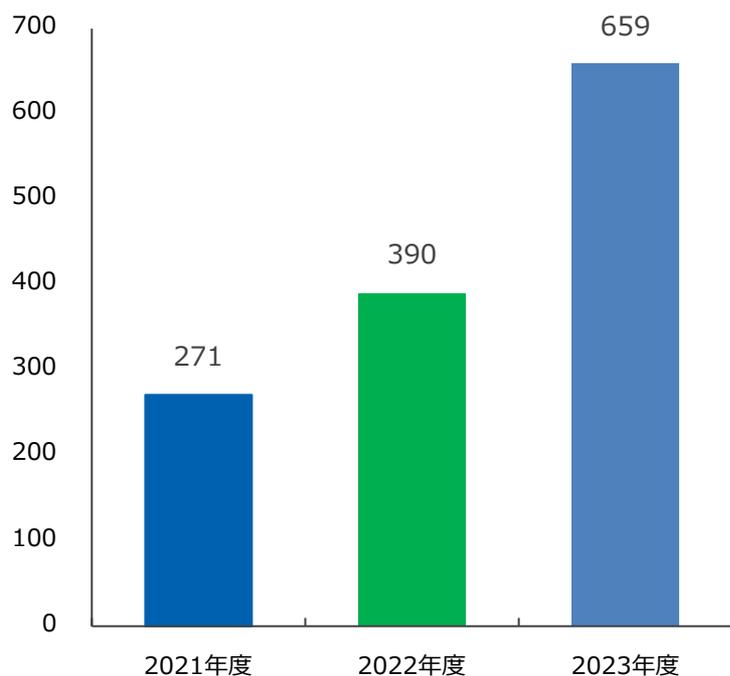
Ⅱ.比較可能な共通 K P I

- ② 投信つみたて件数
- ③ 投信販売額に占める毎月分配型の比率

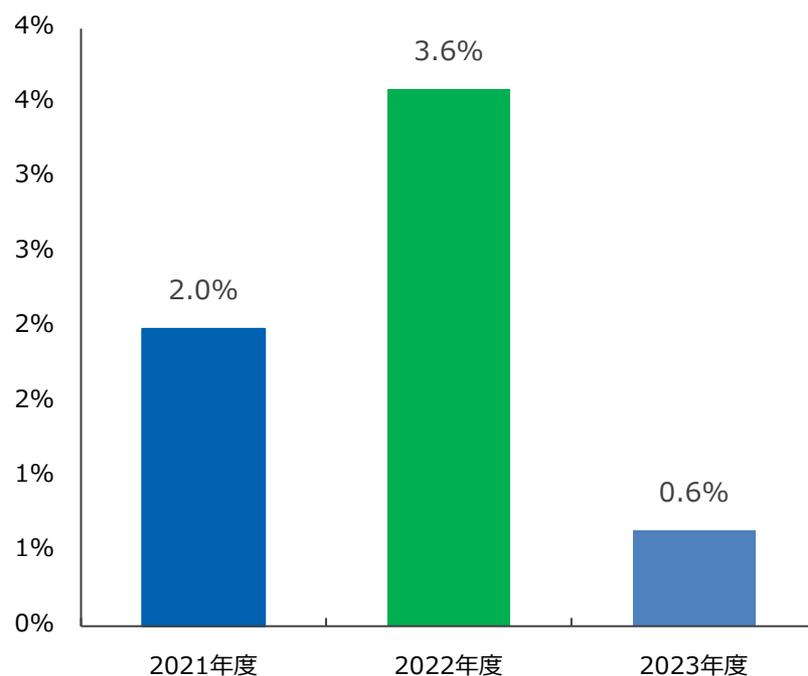
- お客さまに安定的な運用成果をご享受いただくために、適切な情報提供を行うとともに、分散投資・長期投資の有用性をご提案した結果、「投信つみたて」を利用されるお客さまが増加し、「毎月分配型ファンド」を選択されるお客様の比率が相対的に低下傾向です。

<投信つみたて契約件数の推移>

(件)



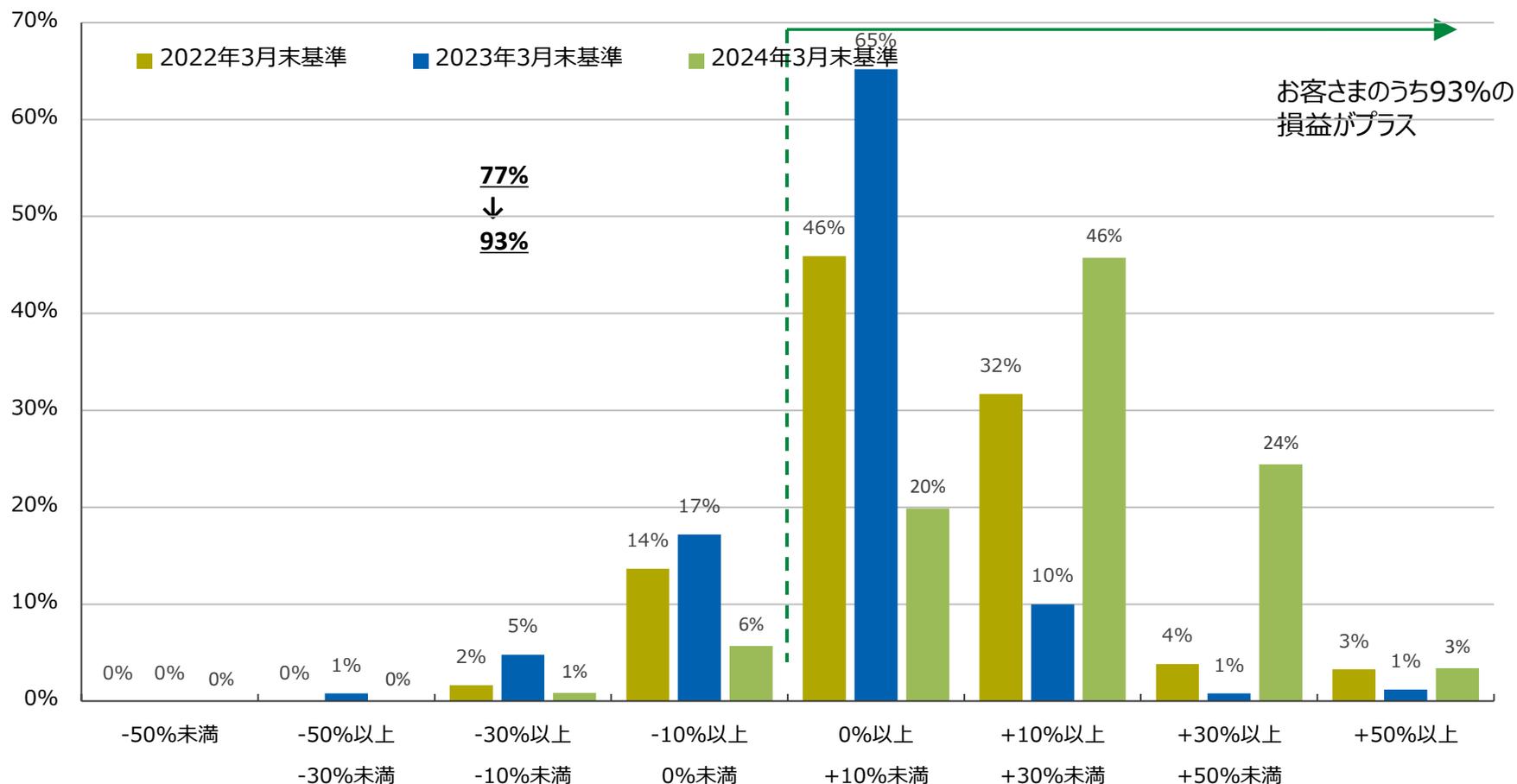
<購入額に占める毎月分配型ファンドの比率>



Ⅱ.比較可能な共通K P I

④ 運用損益別顧客比率

- 「運用損益別顧客比率」は、お客さまへ長期・分散投資やつみたて投資をご提案してきたことにより、2024年3月末時点では全体の93%のお客さまの損益がプラスとなりました。

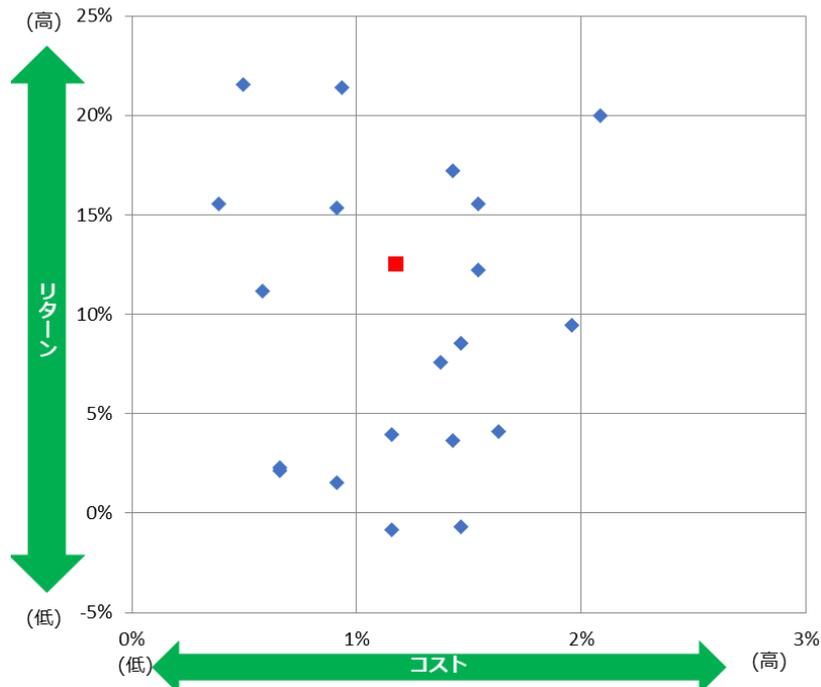


Ⅱ.比較可能な共通 K P I

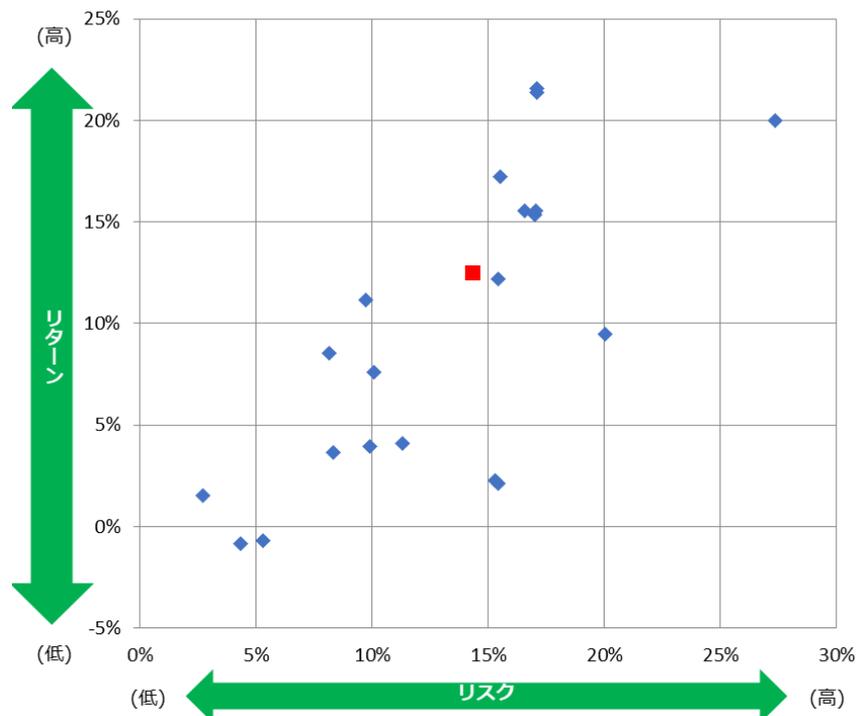
⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/6) (2024年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績をお客さま本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2024年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.17%、平均リスク14.32%に対して、平均リターンは12.51%でした。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



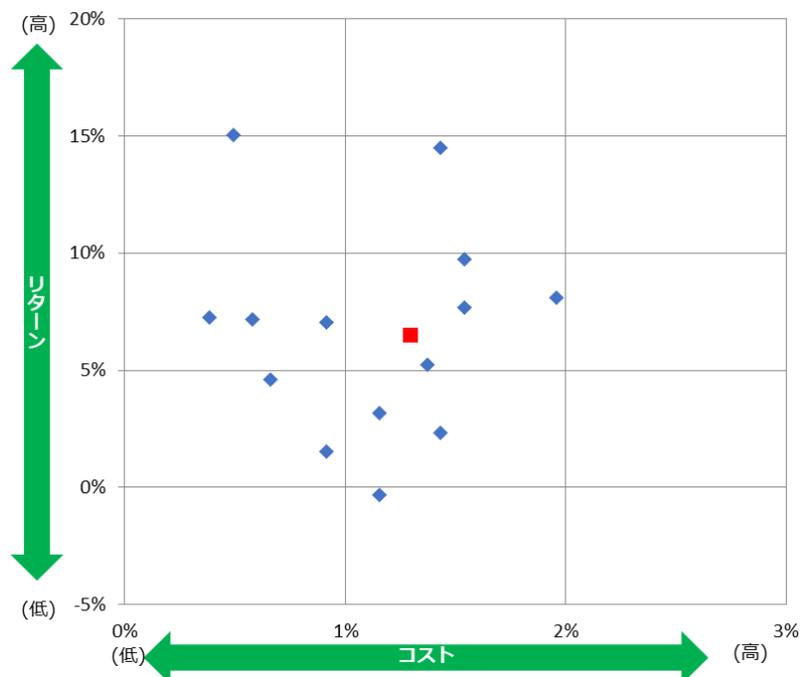
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、14ページに記載しております。
 ※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

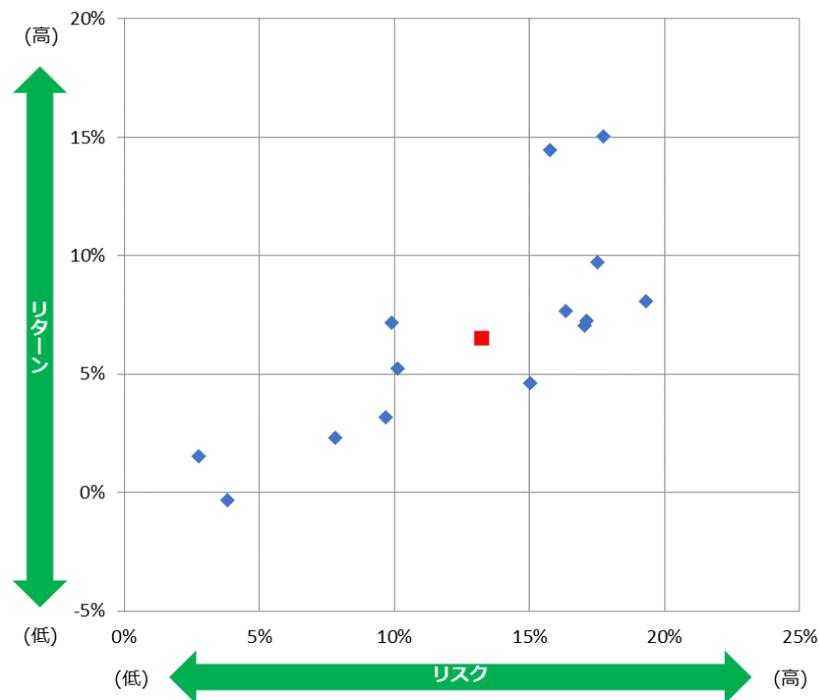
⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/6) (2023年3月末)

- 2023年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.30%、平均リスク13.23%に対して、平均リターンは6.51%となりました。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



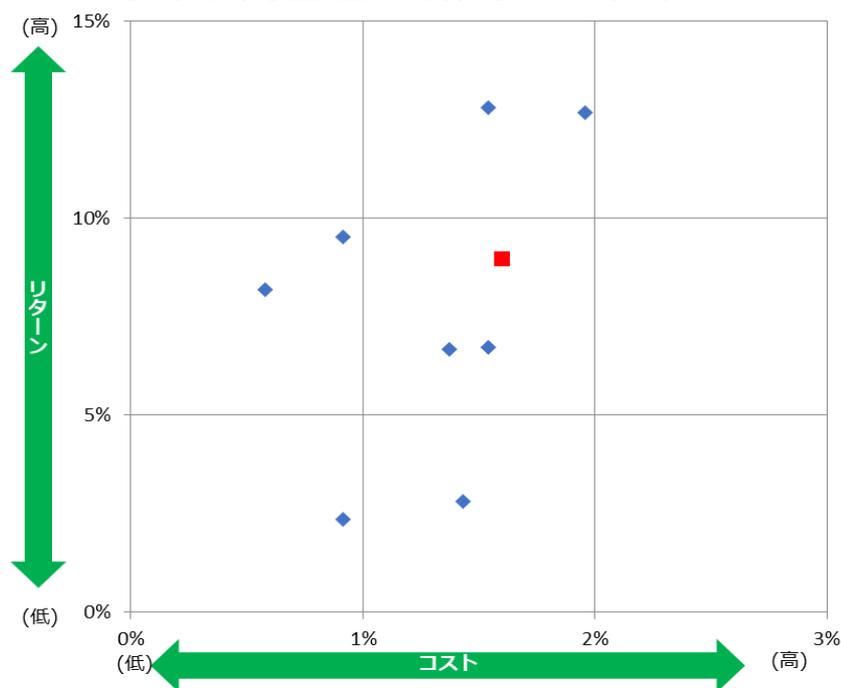
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、15ページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

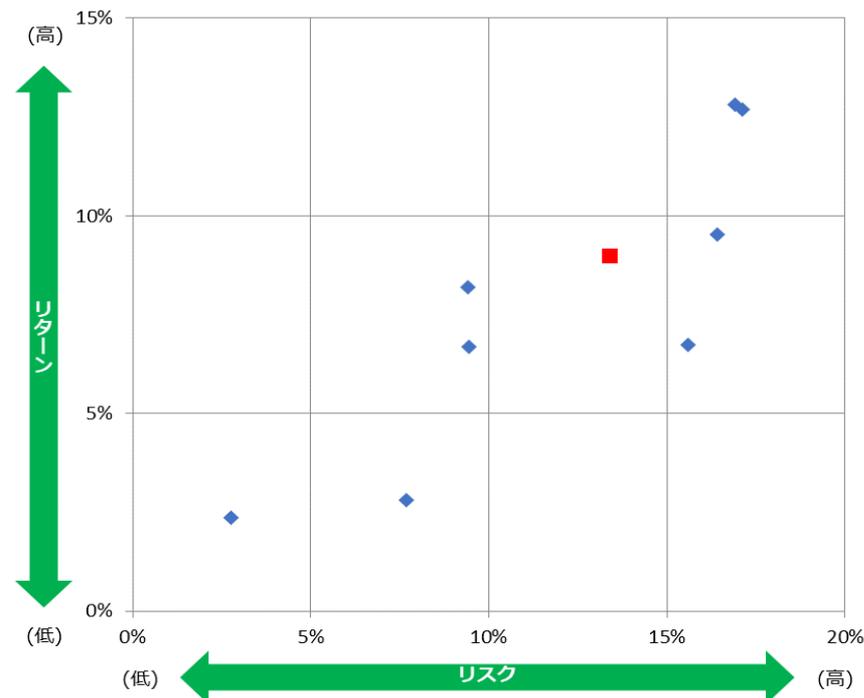
⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/6) (2022年3月末)

- 2022年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.60%、平均リスク13.41%に対して、平均リターンは8.98%でした。

＜預り残高上位20銘柄のコスト・リターン＞



＜預り残高上位20銘柄のリスク・リターン＞



※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、16ページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (4/6) (2024年3月末)

| | ファンド名 | 運用会社 | リターン (年率) | リスク (年率) | コスト 全体 |
|----|-------------------------------|-----------------------|--------------|-------------|-----------|
| 1 | つみたて N I S A 米国株式 S & P 5 0 0 | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 21.55% | 17.11% | 0.50% |
| 2 | D I A M ハッピークローバー毎月決算コース | アセットマネジメントOne (株) | 3.64% | 8.31% | 1.43% |
| 3 | 日米6資産分散ファンド*(資産形成コース) | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 3.95% | 9.89% | 1.16% |
| 4 | セゾン資産形成の達人ファンド | セゾン投信 (株) | 15.53% | 16.54% | 1.54% |
| 5 | 米国株式 S&P500インデックスファンド | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 21.40% | 17.11% | 0.94% |
| 6 | セゾン・グローバルバランスファンド | セゾン投信 (株) | 11.15% | 9.72% | 0.58% |
| 7 | ダイワ・グローバル R E I T ・オープン | 大和アセットマネジメント (株) | 9.47% | 20.01% | 1.96% |
| 8 | 長期厳選投資 おおぶね | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 17.22% | 15.52% | 1.43% |
| 9 | 日米6資産分散ファンド*(安定運用コース) | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | -0.86% | 4.33% | 1.16% |
| 10 | ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド | 三菱UFJアセットマネジメント (株) | 19.98% | 27.37% | 2.08% |
| 11 | つみたて N I S A 日本株式 日経225 | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 15.57% | 17.06% | 0.39% |
| 12 | 農中日経225オープン | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 15.34% | 17.00% | 0.91% |
| 13 | HSBC世界資産選抜 育てるJ-入(資産形成型) | HSBCアセットマネジメント(株) | 4.09% | 11.30% | 1.63% |
| 14 | グローバル・インカムフルコース (為替リスク軽減型) | 三菱UFJアセットマネジメント (株) | -0.67% | 5.31% | 1.46% |
| 15 | 世界の財産3分法ファンド (毎月分配型) | 日興アセットマネジメント (株) | 7.59% | 10.06% | 1.38% |
| 16 | グローバル・インカムフルコース (為替ヘッジなし) | 三菱UFJアセットマネジメント (株) | 8.56% | 8.16% | 1.46% |
| 17 | J-R E I T インデックス (年1回決算型) | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 2.14% | 15.44% | 0.66% |
| 18 | J-R E I T インデックス (毎月分配型) | 農林中金全共連アセットマネジメント (株) | 2.28% | 15.30% | 0.66% |
| 19 | Oneニッポン債券オープン | アセットマネジメントOne (株) | 1.52% | 2.73% | 0.91% |
| 20 | D I A M 世界好配当株オープン毎月決算 | アセットマネジメントOne (株) | 12.22% | 15.44% | 1.54% |
| | 残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値 | | 12.51% | 14.32% | 1.17% |

※ 2024年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は20本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (5/6) (2023年3月末)

| | ファンド名 | 運用会社 | リターン (年率) | リスク (年率) | コスト 全体 |
|----|-------------------------|----------------------|--------------|-------------|-----------|
| 1 | ダイワ・グローバルREIT・オープン | 大和アセットマネジメント(株) | 8.09% | 19.30% | 1.96% |
| 2 | DIAMハッピークローバー毎月決算コース | アセットマネジメントOne(株) | 2.31% | 7.81% | 1.43% |
| 3 | 日米6資産分散ファンド(資産形成コース) | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 3.16% | 9.68% | 1.16% |
| 4 | つみたてNISA米国株式 S&P500 | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 15.05% | 17.74% | 0.50% |
| 5 | 日米6資産分散ファンド(安定運用コース) | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | -0.34% | 3.81% | 1.16% |
| 6 | セゾン・グローバルバランスファンド | セゾン投信(株) | 7.18% | 9.92% | 0.58% |
| 7 | セゾン資産形成の達人ファンド | セゾン投信(株) | 9.73% | 17.50% | 1.54% |
| 8 | 農中日経225オープン | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 7.05% | 17.04% | 0.91% |
| 9 | 長期厳選投資 おおぶね | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 14.48% | 15.74% | 1.43% |
| 10 | つみたてNISA日本株式 日経225 | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 7.26% | 17.10% | 0.39% |
| 11 | 世界の財産3分法ファンド(毎月分配型) | 日興アセットマネジメント(株) | 5.23% | 10.14% | 1.38% |
| 12 | J-REITインデックス(毎月分配型) | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 4.62% | 15.04% | 0.66% |
| 13 | Oneニッポン債券オープン | アセットマネジメントOne(株) | 1.52% | 2.76% | 0.91% |
| 14 | DIAM世界好配当株オープン毎月決算 | アセットマネジメントOne(株) | 7.65% | 16.33% | 1.54% |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| | 残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値 | | 6.51% | 13.23% | 1.30% |

※ 2023年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は14本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

⑤⑥ 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (6/6) (2022年3月末)

| | ファンド名 | 運用会社 | リターン (年率) | リスク (年率) | コスト 全体 |
|----|-------------------------|----------------------|--------------|-------------|-----------|
| 1 | ダイワ・グローバルREIT・オープン | 大和アセットマネジメント(株) | 12.69% | 17.12% | 1.96% |
| 2 | DIAMハッピークローバー毎月決算コース | アセットマネジメントOne(株) | 2.80% | 7.69% | 1.43% |
| 3 | セゾン・グローバルバランスファンド | セゾン投信(株) | 8.19% | 9.42% | 0.58% |
| 4 | セゾン資産形成の達人ファンド | セゾン投信(株) | 12.81% | 16.91% | 1.54% |
| 5 | 世界の財産3分法ファンド(毎月分配型) | 日興アセットマネジメント(株) | 6.67% | 9.44% | 1.38% |
| 6 | 農中日経225オープン | 農林中金全共連アセットマネジメント(株) | 9.53% | 16.42% | 0.91% |
| 7 | DIAM世界好配当株オープン毎月決算 | アセットマネジメントOne(株) | 6.73% | 15.61% | 1.54% |
| 8 | Oneニッポン債券オープン | アセットマネジメントOne(株) | 2.36% | 2.76% | 0.91% |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| | 残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値 | | 8.98% | 13.41% | 1.60% |

※ 2022年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は8本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。